



Founder
**Banjaku
Morikawa**

沿革

- 創始者 森川磐石(もりかわばんじゃく)
 ■明治初期 養蜂業を始める(創始者の父母)
 ■昭和28年 熊本市にて養蜂を開始
 ■昭和30年 ローヤルゼリーの研究に着手
 ■昭和32年 ローヤルゼリーの原乳を成分を壊さずに乾燥させる「合理的濃縮技法」に成功
 ■昭和33年 ローヤルゼリーの完全遮光・糖衣(腸溶性)製品開発に成功。ネオローヤルゼリー粒が完成。
 ■昭和42年 「森川磐石ローヤルゼリー株式会社」設立
 ■昭和47年 「磐石ローヤルゼリー株式会社」へ社名変更
 ■昭和50年 野菜のサプリメント「ネオローヤルグリーン」発売開始。
 ■平成13年 竹炭と椎茸を配合した「コンプリートマーベラスグリーン」へバージョンアップ
 ~現在に至る~

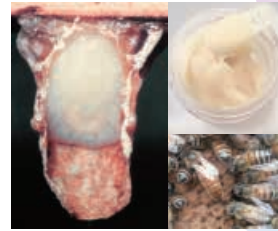
創業者・森川磐石は、敬虔なカトリック教徒であり、養蜂業を営む両親のもと育ちました。幼い頃から「常に人々の幸せを思うこと」を教えられる中で、同じ卵から生まれながらも役割の異なるミツバチの世界に触れ、働き蜂に比べて女王蜂が持つ驚異的な生命力に着目します。

昭和33年頃、ローマ法王が病床でローヤルゼリーを召し上がり回復されたこと、またミツバチを「神の小さな創造物」と表し感謝の意を示されたことが世界的に報道されました。この出来事に深く心を動かされた創業者は、「ローヤルゼリーを人々の健康のために役立てたい」との想いから製品開発を開始しました。

研究には10年以上の歳月をかけ、成分を損なうことなく長期保存を可能にする、生ローヤルゼリーの合理的濃縮技法を確立。「ネオローヤルゼリー」として皆様にお届けする中で、自然に沿った食事や暮らしの大切さ、そして「自分の健康は自分で守る」という考え方を伝えてまいりました。

ローヤルゼリーのパイオニアとして創業者の意思を受け継ぎ、「ミツバチと共に、自然と共存共栄し、時代と自然の摂理に沿った製品づくり」を理念として、環境にやさしい製品づくりを通じ、これからも皆様の健やかな毎日を支えてまいります。

代表取締役社長 **清原雅美**



ローヤルゼリー製品

1957年「熱・光・酸」に弱い成分を含むローヤルゼリー原乳の成分を、独自に開発した「合理的濃縮技法」で成分を極限まで活かした状態で長期保存に成功。

1958年 胃酸で壊される成分を守るため腸溶性皮膜を施したローヤルゼリー粒「ネオローヤルゼリー」の製品化に成功
 人のためのローヤルゼリー商品ができました。

グリーン製品(野菜サプリメント)

【野菜】熊本県菊池市泗水町の直営農場で有機栽培した、モロヘイヤ等健康野菜約30種類が含まれています。

【竹炭】生命力の強い「金竹」を、泗水工場にある炭窯で焼き上げた、「竹炭」を配合しています。

【椎茸】熊本県旭志にある自社椎茸栽培場の木立の中で原木栽培した椎茸を、菌が飛び前の親指大の椎茸を天日、炭火で乾燥して配合しています。



熊本県産はちみつ

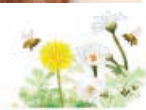
採れてそのまま、非加熱のはちみつを細かいメッシュに濾してビンなどの容器に充填した生はちみつ。現在、はちみつ市場では国産のはちみつは6%しかなく、そのほとんどは中国をはじめとする海外からの輸入品です。(令和7年11月農林水産省生産局畜産部「養蜂をめぐる情勢」より)
 磐石では、熊本県内で花の咲く場所(河内、七城、宇土、玉名、玉東など)に巣箱を移動させながら蜂蜜の採取をしています。ひとつひとつ丁寧に「手詰め」で充填してお届けしています。



【熊本県の蜜源植物】

みかん、れんげ、はぜ、ヘアリーベッチなど

蜜源が特定できないはちみつは「百花蜜」と言います。





会社名 磐石ローヤルゼリー株式会社
代表者 清原雅美
資本金 1,500万円
本社 熊本市中央区上京塚町2番15号
TEL:096-382-6000 / FAX:096-383-1571
工場 本社工場:熊本市中央区上京塚町2番15号
泗水工場:熊本県菊池市泗水町吉富103-1
創業 1946年4月
設立 1967年3月
事業内容 熊本県産蜂蜜、ローヤルゼリーや野菜サプリメント等
健康補助食品、化粧品品の製造及び卸、販売
関連会社 株式会社ロペール

 096-382-6000



banjaku royal jelly Co., Ltd

